

通級だより



静岡聴覚特別支援学校
通級指導教室
2022年12月 NO.8



インクルDBとは…？＜インターネットで検索可能＞

インクルDBは、難聴児支援のみならず、学習参加に関する様々な困難を抱える子どもたちの支援のヒントが閲覧できる、国立特別支援教育総合研究所が公開しているデータベースです。今回はその中から、聞こえにくさのある子どもたちへの支援について、いくつか紹介していきます。子どもたちの学習環境の改善のために、少しでも役立てていただければ幸いです。ぜひ御覧ください。



学校	支援内容
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・補聴援助システムの活用 ・支援員による支援（教科学習の際のノートテイク、教科書の音読している箇所の指示） ・全校集会等の行事における手話やノートテイクによる情報保障 ・ホワイトボードやタブレット型端末での情報保障 ・合理的配慮協力員が友達との適切な関わりについて助言をすることで、授業で挙手したり友達に話し掛けたりするなど積極的な様子が多くなってきた。 ・教科学習の新出語句や聞き慣れない用語の意味理解の確認 
中学校	<p>※思春期を迎え、目立つことや気遣われることへの抵抗から、さりげない支援を求める生徒が増えてきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校入学前の、在籍小学校や通級指導の特別支援学校（聴覚障害）、市教育委員会が連携した丁寧な引継ぎや準備 ・学習や生活においてのノートテイク等の支援員による情報保障 ・ICT機器（パソコン、タブレット型端末、実物投影機等）を活用した情報保障 ・雑音を軽減する音環境の整備（教室内の机と椅子の脚に、テニスボールをはめる等の配慮） 

12月のスキルちゃん

～伝えるため、伝わるための
子ども側の姿勢～

***子どもが話しているとき、他の子どもは話し手を見ていますか。**

- ・ 教師が話し手を見るよう促す。
- ・ 教師が話し手の方に身を乗り出したり、教師が話している子の後ろに立ったりして、他の子どもに話し手への関心をもたせる。
- ・ **話す子ども自身が注視を促す。「見てください。」**
- ・ 人数が多い場合は、話し合いのルールを作る。
(例 話したいときは挙手、指名されたら話すなど)



話し手を見るよう促すことで、傾聴態度を育て、相互読話が円滑にできるようにしていきましょう。

コミュニケーションは、双方の歩み寄りです。また、話し手の顔を見たりうなずいて聞いたりすることは、社会に出た時のマナーとしても大切です。

～発音・発語のポイント～

※濁音は、「バ」行音(B音)から始めましょう。

口を閉じてから息を出してP音を発音する要領で声を出しながら発音するとB音になります。(ブーと唇を閉じて声を出す練習をするとわかりやすい)